

第84回 簿記実務検定第 2 級試験問題

商業簿記

(制限時間 1 時間 30 分)

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現 金	当 座 預 金	受 取 手 形	不 渡 手 形
売 掛 金	未 着 商 品	未 収 金	仮 払 法 人 税 等
備 品	備品減価償却累計額	支 払 手 形	買 掛 金
未 払 法 人 税 等	社 債	資 本 金	資 本 準 備 金
利 益 準 備 金	別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金	売 上
受 取 利 息	固 定 資 産 売 却 益	仕 入	支 払 利 息
創 立 費	株 式 交 付 費	社 債 発 行 費	固 定 資 産 売 却 損
法 人 税 等	本 店	支 店	損 益

- a. 西日本商店は、取得原価 ¥800,000 の備品を ¥250,000 で売却し、代金は小切手で受け取り、ただちに当座預金とした。なお、この備品に対する減価償却累計額は ¥500,000 であり、これまでの減価償却高は間接法で記帳している。
- b. 近畿商店に注文した商品 ¥834,000 に対する船荷証券を、中国商店に ¥920,000 で売り渡し、代金のうち ¥600,000 は同店振り出しの小切手で受け取り、残額は月末に受け取ることにした。
- c. かねて、商品代金として受け取っていた東西商店振り出し、当店あての約束手形 ¥730,000 が不渡りとなり、償還請求に要した諸費用 ¥2,000 とあわせて東西商店に支払請求していたが、本日、請求金額と期日以後の利息 ¥1,000 を現金で受け取った。
- d. 関西商会の本店は、支店の得意先に対する売掛金 ¥280,000 を現金で回収し、支店にこの通知をした。(本店の仕訳)
- e. 京都産業株式会社は、次の条件で社債を発行し、全額の払い込みを受け、払込金は当座預金とした。なお、この社債の発行に要した諸費用 ¥380,000 は小切手を振り出して支払った。
- | | | | |
|------|------------------|------|--------------------|
| 発行条件 | 額面総額 ¥68,000,000 | 払込金額 | 額面 ¥100 につき ¥98.40 |
| | 償還期限 8年 | 利 率 | 年2.5% 利払い 年2回 |
- f. 滋賀商事株式会社は、決算の結果、当期純利益 ¥1,762,000 を計上した。
- g. 奈良商事株式会社は、法人税・住民税及び事業税の確定申告をおこない、決算で計上した法人税等 ¥720,000 から中間申告のさいに納付した ¥300,000 を差し引いた額を現金で納付した。

2

次の取引を特殊仕訳帳としての当座預金出納帳と売上帳に記入し、総勘定元帳・売掛金元帳と買掛金元帳に転記しなさい。

- ただし、i 総勘定元帳への転記は、特殊仕訳帳から直接おこなうこと。
 ii 特殊仕訳帳は、月末に締め切るものとする。
 iii すでに記入してある取引も転記すること。
 iv 総勘定元帳・売掛金元帳・買掛金元帳の記入は、日付と金額を示せばよい。
 v ほかに特殊仕訳帳として、現金出納帳と仕入帳を用いている。

取 引

1月20日 岡山商店に次の商品を売り渡し、代金は同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金とした。

A 品 250個 @¥600 ¥150,000

23日 広島商店に対する買掛金 ¥97,000 を小切手を振り出して支払った。

25日 山口商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。なお、発送費 ¥9,000 は光運送店に小切手を振り出して支払った。

B 品 400個 @¥700 ¥280,000

27日 山口商店に売り渡した上記商品のうちに、品質不良があったので、次のとおり返品された。

B 品 10個 @¥700 ¥ 7,000

3

次の各問いに答えなさい。

- (1) 島根商店（個人企業）における本店の貸借対照表、支店の損益勘定および資料によって、次の勘定科目と金額を記入しなさい。

- a. 支店の損益勘定の（ア）の勘定科目 b. 本支店合併後の当期純利益
 c. 合併損益計算書の期末商品棚卸高

〔本店〕

貸借対照表
平成〇年12月31日

資 産	金 額	負債・純資産	金 額
現 金	960,000	支払手形	1,150,000
当座預金	2,790,000	買掛金	1,719,000
売掛金	2,421,000	資本金	5,500,000
商 品	680,000	当期純利益	582,000
備 品	1,100,000		
支 店	1,000,000		
	8,951,000		8,951,000

〔支店〕

損		益	
12/31仕 入	4,712,000	12/31売 上	6,270,000
〃 給 料	1,056,000	〃 受取手数料	41,000
〃 減価償却費	185,000		
〃 雑 費	12,000		
〃 (ア)	()		
	6,311,000		6,311,000

資 料

- i 支店から本店に発送した商品 ¥80,000（原価）がまだ本店に到着しておらず、本店側では未処理である。
- ii 支店における決算整理前の元帳勘定残高（一部）
 繰越商品 ¥ 414,000
 本 店 920,000（貸方）
 仕 入 4,688,000
- iii 支店の収益総額は ¥6,311,000 費用総額は ¥5,965,000 である。

(2) 兵庫商店では伝票制を採用し、仕入・売上の各取引については、代金の決済条件にかかわらず、すべて、いったん掛け取引として処理する方法で起票している。よって、

- a. 6月23日の略式の伝票を集計したさいの仕訳集計表の(ア)と(イ)に入る金額を計算しなさい。
ただし、下記の取引について、必要な伝票に記入したうえで計算すること。
- b. 下記の仕訳集計表から、総勘定元帳に転記後の当座預金勘定の残高を計算しなさい。ただし、6月22日の当座預金勘定の残高は ¥845,000 であった。

取 引

6月23日 宝塚商店から商品 ¥307,000 を仕入れ、代金のうち ¥300,000 は小切手を振り出して支払い、残額は現金で支払った。

入金伝票	
当座預金	321,000
売掛金	159,000
受取手数料	52,000
()	()

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
当座預金	896,000	売掛金	896,000
買掛金	81,000	当座預金	81,000
買掛金	498,000	支払手形	498,000
前払金	136,000	当座預金	136,000
当座預金	75,000	売掛金	75,000
()	()	()	()

出金伝票	
買掛金	120,000
消耗品費	72,000
前払金	218,000
()	()

売上传票	
神戸商店	156,000
西宮商店	650,000
明石商店	405,000
川西商店(値引)	9,000

仕入伝票	
三田商店	354,000
三木商店(返品)	18,000
高砂商店	475,000
()	()

仕訳集計表
平成〇年6月23日

借方	元	勘定科目	元	貸方
		現金		
		当座預金		
		売掛金		(ア)
		前払金		
		支払手形		
		買掛金		
		売上		
		受取手数料		
		仕入		
		消耗品費		
(イ)				(イ)

- (3) 鳥取商店(決算年/回 12月31日)の決算日における次の受取家賃勘定の(①)に入る勘定科目と(②)に入る金額を記入しなさい。ただし、家賃は、2月末と8月末に翌月以降の6か月分として ¥540,000 を受け取っている。

受取家賃			
12/31 前受家賃 ()	1/1 (①)	180,000	
〃 損益 (②)	2/28 現金 ()		
	8/31 現金 ()		
()	()		

4

大阪商店（個人企業 決算年/回 /2月3/日）の総勘定元帳残高と付記事項および決算整理事項は、次のとおりであった。よって、損益計算書（2区分）と貸借対照表を完成しなさい。

元帳勘定残高

現金	¥ 492,000	当座預金	¥ 1,430,000	受取手形	¥ 1,750,000
売掛金	2,960,000	貸倒引当金	6,000	有価証券	1,380,000
繰越商品	2,080,000	貸付金	1,400,000	備品	2,400,000
備品減価償却累計額	1,200,000	支払手形	1,100,000	買掛金	2,143,000
仮受金	360,000	従業員預り金	159,000	資本金	8,300,000
売上	20,700,000	受取利息	42,000	仕入	16,370,000
給料	2,448,000	支払家賃	876,000	保険料	259,000
消耗品費	78,000	租税公課	48,000	雑費	39,000

付記事項

① 仮受金 ¥360,000 は、和歌山商店に対する売掛金の回収額であることが判明した。

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 ¥2,150,000
- b. 貸倒見積高 受取手形と売掛金の期末残高に対し、それぞれ2%と見積もり、貸倒引当金を設定する。
- c. 備品減価償却高 定額法による。ただし、残存価額は零（0） 耐用年数は6年とする。
- d. 有価証券評価高 有価証券は、売買目的で保有している次の株式であり、時価によって評価する。
南北商事株式会社 20株 時価 /株 ¥72,000
- e. 消耗品未使用高 ¥ 24,000
- f. 保険料前払高 保険料のうち ¥195,000 は、本年5月/日から/年分の保険料として支払ったものであり、前払高を次期に繰り延べる。
- g. 利息未収高 ¥ 21,000

第84回 簿記実務検定 2級 **商業簿記** [答案用紙]

1

	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		
f		
g		

1 得点		2 得点		3 得点		4 得点		総得点	
----------------	--	----------------	--	----------------	--	----------------	--	-----	--

試 験 場 校	受 験 番 号

総 勘 定 元 帳

現 金 1	当 座 預 金 2
1/1 前期繰越 193,000	1/1 前期繰越 580,000
受 取 手 形 3	売 掛 金 4
1/1 前期繰越 570,000	1/1 前期繰越 1,230,000
買 掛 金 12	売 上 18
1/1 前期繰越 780,000	
発 送 費 25	
売 掛 金 元 帳	買 掛 金 元 帳
山 口 商 店 1	広 島 商 店 1
1/1 前月繰越 520,000	1/1 前月繰越 290,000

3

(1)	a	支店の損益勘定の (ア)の勘定科目	b	本支店合併後の 当期純利益 \yen
	c	合併損益計算書の 期末商品棚卸高 \yen		
(2)	a	ア \yen	イ \yen	
	b	\yen		
(3)	①		② \yen	

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">2</div> 得点	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">3</div> 得点
--	--

4

大阪商店 損益計算書
平成〇年/月/日から平成〇年/2月3/日まで

費用	金額	収益	金額
期首商品棚卸高		売上高	
仕入高		()	
()			
給料		売上総利益	
()		受取利息	
()		()	
支払家賃			
()			
()			
租税公課			
雑費			
()			

貸借対照表

大阪商店 平成〇年/2月3/日

資産	金額	負債および純資産	金額
現金		支払手形	
当座預金		()	
受取手形 ()		()	
貸倒引当金 ()		資本金	
売掛金 ()		()	
貸倒引当金 ()			
()			
()			
消耗品			
貸付金			
()			
未収利息			
備品 ()			
減価償却累計額 ()			

4
得点

第84回 簿記実務検定 2級 [商業簿記] [解答]

借方	貸方	
	借方	貸方
a	備品減価償却累計額 500,000 当座預金 250,000 固定資産売却損 50,000	備品 800,000
b	現金 600,000 売掛金 320,000 仕入 834,000	売上 920,000 未着商品 834,000
c	現金 733,000	不渡手形 732,000 受取利息 1,000
d	現金 280,000	支店 280,000
e	当座預金 66,912,000 社債発行費 380,000	社債 66,912,000 当座預金 380,000
f	損益 1,762,000	繰越利益剰余金 1,762,000
g	未払法人税等 420,000	現金 420,000

2

当座預金出納帳

平成○年	勘定科目	摘要	平	売掛金	買掛金	諸口	平	要	諸口
/ 16	受取手形	約手入金	3	290,000	178	現金引き出し	✓		
20	売上	岡山商店	✓	150,000	23	買掛金 広島商店買1			97,000
					25	発送費 光運送店	25		9,000
				680,000					617,000
31		売掛金	4	680,000	31	買掛金	12		617,000
〃		当座預金	2	1,250,000	〃	当座預金	2		1,046,000
		前月繰越	✓	580,000		次月繰越	✓		784,000
				1,830,000					1,830,000

2

売上帳

平成○年	勘定科目	摘要	平	売掛金	諸口
/ 19	現金	前ページから 現金	✓	694,000	387,000
		山陽商店			120,000
		C品 150個 @ ¥800			
20	当座預金	岡山商店 小切手	✓		150,000
		A品 250個 @ ¥600			
25	売掛金	山口商店 掛け	売1	280,000	
		B品 400個 @ ¥700			
27	売掛金	山口商店 掛け返品	売1	7,000	
		B品 10個 @ ¥700			
31		売掛金	4	974,000	657,000
〃		総売上高	18		974,000
〃		売上返品高	18/4		1,631,000
		純売上高			7,000
					1,624,000

総勘定元帳

現	金	1	当座預金	2
1/1 前期繰越	193,000	1/1 前期繰越	580,000	1/31 1,046,000
		31	1,250,000	
受取手形		3	売掛金	4
1/1 前期繰越	570,000	1/1 前期繰越	2,370,000	1/31 680,000
		31	974,000	7,000
買掛金		12	売上	18
1/31	617,000	1/1 前期繰越	780,000	1/31 7,000
		1/31		1,631,000
発送費		25		
1/25	9,000			
売掛金元帳		買掛金元帳		
山口商店	1	広島商店	1	
1/1 前期繰越	520,000	1/27 7,000	1/23 97,000	1/1 前期繰越 290,000
25	280,000			

3

(1)	a	支店の損益勘定の (ア)の勘定科目	本店	b	本店 合併後の 当期純利益	928,000
c		合併損益計算書の 期末商品棚卸高	1,150,000			
(2)	a	7	1,139,000	1	5,309,000	
	b	8	978,000			
(3)	①	前受家賃		②	1,080,000	

4

大阪商店 平成〇年/月/日から平成〇年/2月3/日まで

費	用	金額	収	益	金額
期首商品棚卸高	高	2,080,000	売上	高	20,700,000
仕入	高	16,370,000	(期末商品棚卸高)		2,150,000
※(売上総利益)		4,400,000			
		22,850,000			22,850,000
給料	料	2,448,000	売上総利益		4,400,000
(貸倒引当金繰入)		81,000	受取利息		63,000
(減価償却費)		400,000	(有価証券評価益)		60,000
支払家賃		876,000			
(保険料)		194,000			
(消耗品費)		54,000			
租税公課		48,000			
雑費		39,000			
※(当期純利益)		383,000			
		4,523,000			4,523,000

(i 貸倒引当金繰入は、貸倒償却でもよい。
ii ※印の売上総利益と当期純利益の記入は、赤記でもよい。)

貸借対照表

大阪商店	平成〇年/2月3/日	負債および純資産	金額
資	産	負債	金額
現金	492,000	支払手形	1,100,000
当座預金	1,430,000	(買掛金)	2,143,000
受取手形 (1,750,000)		(従業員預り金)	159,000
貸倒引当金 (35,000)	1,715,000	資本金	8,300,000
売掛金 (2,600,000)		(当期純利益)	383,000
貸倒引当金 (52,000)	2,548,000		
(有価証券)	1,440,000		
(商品)	2,150,000		
消耗品	24,000		
貸付金	1,400,000		
(前払保険料)	65,000		
未収利息	21,000		
備品 (2,400,000)			
減価償却累計額 (1,600,000)	800,000		
	12,085,000		12,085,000